

(二) 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は「二」の 1 から 13 までとする。

太平洋戦争が始まっておよそ七か月が過ぎた一九四二年七月十五日、東京・内幸町の放送会館の一室で、ある座談会が開かれた。日本放送協会が編集する雑誌『放送研究』（一九四二年八月号）に掲載するために企画された「闘う『前線録音』座談会」である。

出席したのは、中国や南方の前線に赴き戦場の音を録音盤に記録してきた「現地派遣録音隊」の隊員たち。彼らによる前線録音『香港攻略戦』や『ビルマ戦線』は、聴取者から圧倒的な支持を得ていた。日本放送協会「昭和十六年度事業報告」は、「前線の戦闘並びに諸建設工作等」に^(a)ジンリョクする将士の労苦を録音せしめ、之を銃後国民に放送し生々しき感銘を与えた」と記している。前線の戦いを音によって銃後に伝える録音隊員は、⁽¹⁾当時の放送界にあつていわば時の人であつた。

座談会は、五人の録音隊員に『放送研究』編集部の二人（日本放送協会職員である）が加わって進められた。トラックや馬による機材運搬の苦労、機材トラブルとの闘い、食料や飲料水の問題、そしてマイクの位置取りや素材の選択について、録音隊員たちは饒舌^{じょうぜつ}に語っている。

⁽²⁾だが、この座談会には、一読、どこかちぐはぐな印象がある。それは例えば次に引くような部分だ。やや長い引用になるが、座談会の空気を感じ取ってもらいたい。最初の発言者、文挟一男は編集部側で、ほかは「現地派遣録音隊」のメンバーである。

文挟 それから前線録音で大切なことは、それを単なる報道におわらせずに、あくまで意識的に銃後国民へのアジテーション[※]効果を狙って進められなければならないことだと思う。例えば戦闘状況を録音する場合に、銃砲火や爆音だけでは戦いの凄さというものはわかるが、機械的な音だけでは自分らの戦いという実感がピンと来ない。（中略）しかし、ここに兵隊の戦いの叫びが銃砲声の隙間に僅かばかり挟まれたとしたらどうであろう。これを聴く銃後国民は戦争を自分た

ちの身の中に切実に感じて強くシキを燃やすに違いない。それは血の通ったハクシン性^㉑が捉えられたからだと思う。こんなふうの意識的な努力はいつも必要だと思う。(中略)

高野 それは戦って居るものは、機械の音ばかりでなく兵隊が居るということは、確かに現わす必要があると思う。やはり放送するのだという気持ちでやられては……。

杉本 わざとお芝居になつてはおしまいだ。

文挟 勿論^{もちろん}それが造られたものでは生命がない。自然に^{ほとぼし}進みいでた断片であることに値打ちがある。(中略)

杉本 確かにそうです。吾々もそういうような機械音とアナウンスと、それと同等の高さに^お於いてそういう兵隊の声というものを非常に気を付けて取りました。

高野 そういう意味からいうと、これはアナウンスを必要としないでその状況を現わして、完全に聴取者がそれを想像出来るものが最高の録音だ。

杉本 アナウンスを以て不足の部分を補うのですから、録音を以て完全に現わせば最高のものだ。

高野 録音だけで表現するというのが、吾々の苦心だ。

編集部 文挟が引きだそうとしているのは、「銃後国民へのアジテーション効果」のためには何が必要かという議論である。それは内閣直属のメディア統制機関・情報局の方針に沿ったものだった。情報局は『^㉓もはや前線も銃後もなく、総てが戦場である』という認識と自覚を全国民に理解徹底せしめることを^{※へきしやう}劈頭に於ける国内放送の目標とし^㉔ていた。

録音隊員たちも、課された使命には自覚的で、座談の冒頭付近には「銃後と前線とがやや遊離して居るとすれば甚だ由々しき問題だし、もっと密接に結び付ける問題があればというふうな目的を持って行ったわけだ」という発言もある。編集部は、その「目的」を実現するための「意識的な努力」こそを聞きだそうとしているのだが、隊員たちの議論は、その方向には展開しない。彼らは実音とアナウンスの関係についての議論に夢中で、引用した部分のあと延々と続けている。(中略)

この座談会に先駆けて文挾は、『放送研究』 四月号誌上で「われわれは政治宣伝技術者である」と主張している。そういう文挾は、なんとか座談の方向を前線録音の「政治性」というテーマに引き戻そうとするのだが、録音隊員たちは、アナウンスによる説明抜きでもシーンは作れるという発見に夢中で、編集部呼び水には乗らない。一事が万事、編集部の意図と実際に交わされる論議の間にはズレがあり、ちぐはぐな印象がぬぐえないのだ。座談が盛り上がらない、というのではない。編集部を

9

ように「現場ばなし」が活発に展開している。

ここにあるのは、「現場」の人間と「非現場」の人間の間のズレである。ディレクターとしてドキュメンタリー番組を三十余年制作してきた私などは、「ああ、ここでは俺らの先輩たちが語っている」と思う。そして「わかりますよ、先輩。現場で具体的に考えるのが俺たちですよ。左にしろ右にしろ、現場から遠く離れた場所で考えた『政治性』なんかで番組は作れませんよね」とエールを送りたくなる。

中国北部での前線録音や、重慶爆撃の機上録音リポートを担当した島浦精二アナウンサーは次のようにも発言している。

「僕の中では内地で考えたものは、向こうへ行つてはあまり通用しないという感じが強かった」「殊に今度みたいな戦争になると、行く人間としてはあれをとってやろう、こういう場合があるうという気持^{きもち}は必要であるが、それにばかりこだわっていると非常に良いものを落としたりすることがあるのではないか。いつでもとれる、何かそういう自由な気持で行かなければいけないような気がする」

我が意を得たり、またそう思う。今、放送の現場で仕事をする者で「ロケに出る前に構成表は必要だが、それに縛られてもいけない」と教えられなかった者はいないのではないか。戦時中の前線録音の現場には、今もそのまま通用する方法、あるいは方法の模索があった。

録音隊員たちは、新しい表現が生まれる現場に立ち会っている。そのコウヨウ感^dが、情報局の指導方針しか頭にない編集部との間にちぐはぐな感じを生じさせているのだ。

日本放送協会が初めて自前の録音を放送に使ったのは、一九三六年十月二十九日、神戸港沖の観艦式の時だった。現場からの実況を、ドイツ・テレフンケン社製円盤録音機を使って大阪中央放送局内で録音し、同日夜、放送したのである。翌年には日中戦争が勃発、録音放送は戦時下で急速な発展を遂げた。それは単に技術的な進歩だけを意味するのではなく、技術的進歩が新しい方法を生みだしてゆくプロセスでもあった。「現地派遣録音隊」の座談会とほぼ時を同じくして、日本放送協会報道部の独活山どくやま萬司は次のように記している。

即ち初期に於いては単に録音機を持つ機械的能力——不完全ではあるが録音機自体が持っていると考えられる記録性に依存した素朴な再生、また放送の補助手段としての録音再生機能の利用のみを取上げていた。其の後、各種の素材を編集構成して独自の放送形式を持つことが予想されるに至り、従来の放送形式に一つの革命をもたらした。

〔戦時録音放送の問題〕『放送研究』一九四二年四月号、傍点は引用者

「記録性に依存した素朴な再生」とは、先述した観艦式の場合もそうだが、一般化したのは、一九三七年五月、相撲の実況中継の録音を夜七時のニュースの中で再生したときからである。当時、相撲中継は、最後の好取組を残したまま夕方六時ではかの番組に切り替わってしまい、相撲ファンを嘆かせるということがあったのだが、録音再生という新しい技術は聴取者に驚きをもってカンゲイえされたという。録音放送は、こういう「素朴な再生」として始まった。（中略）

しかし、独活山の考えでは、録音放送は実況中継の代替物などでは断じてない。「各種の素材を編集構成して」作る録音放送は、「従来の放送形式に一つの革命をもたらした」と言うのである。同じことを独活山は次のようにも記している。「構成による放送の possible 発見は此の放送に輝かしい未来を約束した」。

先に「現地派遣録音隊」のメンバーたちは、新しい表現が生まれる現場に立ち会っていると述べたが、新しい表現とは、独活山が「革命」とまで言いきる新しい表現形式、すなわち「構成による放送」にほかならない。^⑥ 彼らは現場で出くわす出来

事、現場の音にこだわった。現地の音だけで、ある意味を伝えることができる考えた。例えば南洋のジャングルでマイクが捉えた怪鳥の声によっても、日本兵が遠く離れた南の島で戦っていることを表現しうるのだと熱く語っている。南洋の珍しい鳥を紹介しようとするのではない。ほかの実音やナレーションとの組み合わせ、すなわち「構成」によって、鳥の声は鳥の声そのものとは別の意味を帯び得ることを彼らは発見したのである。

（大森淳郎『ラジオと戦争 放送人たちの「報国」』による。ただし、本文の一部と見出しを省略した）

※銃後……戦時、直接の戦闘に加わらない一般国民や国内の状況

※アジテーション……強い調子の言葉や音声などで人々の気持ちをあおり、ある方向の行動にしむけること

※劈頭……ものごとのいちばん初め

問一 二重傍線部①～⑤の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各項の中からそれぞれ選び、その番号をマークせよ。

1

① 獅子フンジンの活躍

2 ジンジョウではない強さ

2

② 敵のホンジンに攻め込む

4 リフジンな処罰を受ける

3

③ 囲碁のキシを目指す

2 勝利するのはシナンのわざだ

4

④ 政治家をフウシする

4 シショウの指導を受ける

3

⑤ ハクシヤを掛ける

2 ハクジョウ者

4

⑥ 万国ハ克蘭カイ

4 キョウハク観念

5

⑦ ヨウキにふるまってみせる

2 翼のヨウリョクを計算する

3

⑧ 部品をヨウセツする

4 メンヨウな体験をする

4

⑨ 両国首脳がコウカン会に参加した

2 カンゼン懲悪の物語

3

⑩ 基礎シツカンがある人

4 カンサンとした店内

問二 傍線部①のようになった理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

1 録音という新しい技術を活用して戦闘の機械的な音を伝え、戦場と銃後とを意識的に結び付けようとしていたから

2 銃後と前線との密接な結び付きが目標とされる中で、実際に前線に赴いて録音し取材をした経験を持っているから

3 専門家から見れば単なる報道に過ぎない内容だが、その一方で聴取者の支持を得ていることは無視できないから

4 戦場で様々な問題を乗り切るための苦労を経験したことは、放送関係者にとってかけがえのない経験だから

問三 傍線部②の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 録音内容がわざとらしく聞こえないか心配する「録音隊」と、時にヤラセも必要とする編集部とで対立している
- 2 アナウンスは必要であると言う「録音隊」を、機械の音だけでは人間を感じられないと編集部が説得している
- 3 現地での苦勞と成果とをふり返る「録音隊」と、聴取者への扇動効果を重要視する編集部との間に温度差がある
- 4 国民へのアジテーションが必要というのが当時の方針であり、その点だけは「録音隊」と編集部は一致している

問四 傍線部③の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 実際には戦場にはいない「銃後」の人間も、「前線」の人々と一緒に戦争に参加して戦っているのだという認識
- 2 戦場が拡大して本土も空襲を受けるようになり、もう「前線」と「銃後」とを分けられない状態だという認識
- 3 「前線」の人間を過酷な戦場で孤立させないために、「銃後」の人々の苦難を伝える必要があるという認識
- 4 「銃後」と「前線」との間が遊離しているので、放送関係者だけでも戦場を経験せねばならないという認識

問五

9

にあてはまる言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

9

- 1 けむに巻くかの
- 2 嬉しがらせる
- 3 導いているかの
- 4 置き去りにする

問六 傍線部④のように言う理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

10

- 1 技術的な話題に終始するふりをして政治参加を回避する手段について、他に選択肢が無かったと納得しているから
- 2 時代は異なるが同じ放送番組の制作者として、ロケに出る者にしかわからないこだわりがあると共感しているから
- 3 放送の初期から現場にいない人間からの介入に苦しむ人たちがいたのを知り、自身と同じ境遇を嘆いているから
- 4 事前に取材の予定を立てていても、現場で起こる予想外の事態無しには放送番組を制作することはできないから

問七 傍線部⑤の説明として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

11

- 1 録音素材を加工せずに「素朴」に再生することを通して、実音が示す意味を明確に聴取者に伝達するための方法
- 2 録音した音とナレーションとを巧みに「構成」して、聴取者を戦争に向かわせるアジテーションのための方法
- 3 録音素材を「編集構成」し、聴取者が想像によって新たな意味をそれぞれの音から汲み取れるようにする方法
- 4 戦場で録音した素材の「記録性」をより強化して、それまでの「実況中継の代替物」から脱するための方法

問八 傍線部⑥の理由として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

12

- 1 「構成による放送」を実現するためには、聴取者の想像をかきたてるための実音が必要だから
- 2 「録音機の持つ機械的能力」を活かすことこそが、放送の「記録性」を高める上で重要だから
- 3 聞き慣れない戦闘の音を番組に使用することで、「銃後」の国民はより豊かな想像が可能になるから
- 4 聴取者が求めているのは実況中継の「素朴な再生」なので、余計な工夫はかえって嫌われるから

問九 本文の主旨として、あてはまらないものを次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- 1 録音素材をラジオ番組に使用すること自体は以前から行われていたが、太平洋戦争の開始と共に「前線」と「銃後」との距離を埋めるための新しい方法として現場録音が注目され、制作スタッフも期待に応えようとしていた
- 2 「前線」での実音を活かした番組の制作について、当初「現場」の人間と「非現場」の人間の間のズレ」はあったものの、新しい方法が見出されると「現場」の人間」のこだわりが活かされるようになっていった
- 3 太平洋戦争下で「前線」での現場録音によるラジオ番組の制作が始まり、「銃後」の国民を扇動する内容になることが求められる中で、現場のスタッフは録音素材とナレーションとを組み合わせる方法を発見し模索していた
- 4 「銃後」の人間として戦争への協力が求められる中で、ラジオ番組の制作スタッフは技術的な問題にしか興味が無いようにふるまうて見せ、「構成による放送」の技術も現地の自然の風景を聴取者に伝えるためだけに用いていた

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。解答番号は、〔二〕の 1 から 9 までとする。

※ 唐よりここに文ありと聞きしかど、虚言そらごとにや、見えず。① それを見るときも、「ゆかしう対面せまほしきことは慰めやせむずる」

と思へど、ここにてはやううちありける文の、ものに入りたりける、取り出でて、見まほしき折は見るものを、まして唐のこ
となどあらむと思ふがゆかしきなり。③

A からくにの別れなりともわが身だにここに嘆かば誰か嘆かむ

ともすれば涙にくもる行末の暗き道こそ思ひやらるれ

うち嘆きつつ月日を過ぐす。世の厭はしさ、言ふ方なし。「昔物語の、あはれなるもをかしきもありし、虚言そらごとにはあらざりけ
り」と、今ぞ覚ゆる。

この居たる西南、ところどころに桜いみじう咲きたるを、幼き者どもの、④ 「乞ひ寄せて、賜へ」と言へば、

B 花よりも身にはたとへん方ぞなきうつらん春にあはんとすやは

と見ゆるほどに、帰る雁、雲居に聞ゆるを、いみじうはるかなるとあはれにて、

秋はつる雁の声とは聞きながら春の雲居のあはれなるかな

と思ふに、「唐にも秋こそは渡るなれ」と人の言ふにも、

うらやましおなじ雲居のほどと言へどいつとも知らぬ 5 を待つかな

C かりにても今日ばかりこそうらやまめ明日を待つべき命ならねば

袖はひぢ涙の池に目はなりて影見まほしき音をのみぞ泣く

⑤ 「言ふにもあまる」と昔の人の言ひける、虚言そらごとにはあらざりけり」とぞ 7 。

※唐……中国・宋のこと。成尋阿闍梨は仏教修行のために宋に渡った

問一 傍線部①の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

1

- 1 たとえ手紙を見たとしても
- 2 たとえ成尋に会えたとしても
- 3 たとえ嘘が嘘ではなかったとしても
- 4 たとえ嘘をついた者が明らかになったとしても

問二 傍線部②の現代語訳として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

- 1 会って話をしたい気持ちも少しは慰められるだろう
- 2 会って話をしたい気持ちが慰められることはないだろう
- 3 会って話をしたいのはやまやまだが、自分で心を慰めるしかないだろう
- 4 会って話をしたいと手紙に書かれてないならば、慰めにもならないだろう

問三 傍線部③の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

- 1 唐の国に行ってみたくてしかたがない
- 2 成尋に会いたくてしかたがない
- 3 歌を詠みたくてしかたがない
- 4 手紙を見たくてしかたがない

問四 傍線部④の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 近くに寄って見させてください
- 2 桜に心を寄せて歌を詠んでください
- 3 人に持ってきて来させて私たちにください
- 4 私たちを花にたとえてみてください

問五 空欄 5 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 春
- 2 夏
- 3 秋
- 4 冬

問六 傍線部⑤の意味として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 言うに事欠いて
- 2 口をつくのは恨み言ばかりだ
- 3 言葉にならない思いだ
- 4 歌は言葉にまさる

問七 空欄 7 に入る言葉として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 思ひ知りたり
- 2 思ひ知らるる
- 3 思ひ知らるれ
- 4 思ひ知るらん

問八 歌A、B、Cに共通して見られる和歌の表現技法として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 掛詞
- 2 縁語
- 3 歌枕
- 4 物名

問九 波線部（二ヶ所ある）には筆者のどのような様子が表れているか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 昔物語などに書かれていたのと同じ状況に遭遇し、語り手に同化している
- 2 昔物語に書かれていた「あはれ」や「をかし」の感情に限ってはその通りであることを痛感している
- 3 昔物語などに書かれていたしみじみとした悲哀を、つくづく実感している
- 4 昔物語は虚構に満ちていると思っていたが、それどころかリアリズムであったことを心外に思っている

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。 解答番号は〔三〕の 1 から 8 までとする。

「これからは物の豊かさよりも心の豊かさだ」という意見に、あなたは同意されますでしょうか。それとも、そうは思いませんでしょうか。

内閣府が毎年、行政一般の基礎資料とするために1万人を対象に行なっている『国民生活に関する世論調査』では、この質問が尋ねられています。それによれば、2018年調査の結果で、物の豊かさ支持が30・2%なのに対して、心の豊かさ支持

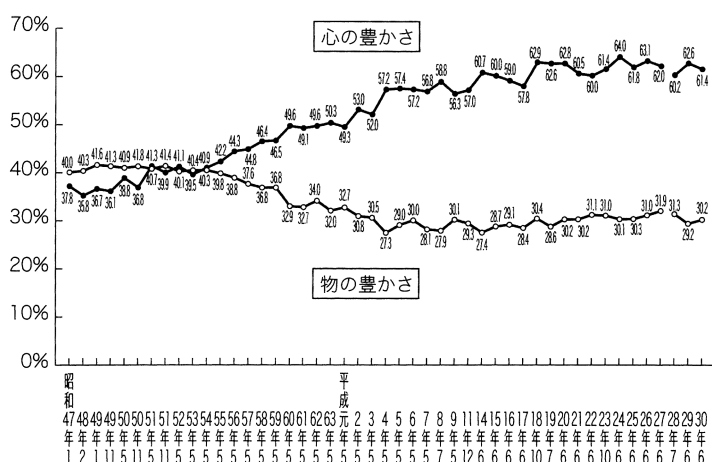
は61・8%となっています。そして過去の結果からの推移として、「これからは心の豊かさ」と答える人はだいたい増え続けているようにみえます（図一参照）。

ただし、質問の仕方として「これからは」とか、「まだ」という言葉を使ってしまったっており、そのことが回答の方向性に影響してしまっている可能性は大きい^①にあります（このように価値観を左右する表現は、社会調査の質問では本来使うべきではありません）。

それはともかくとして、この調査結果について年代別に回答傾向をみると、また異なる状況が現れてきます。それは、年齢層が上がるほど、「心の豊かさ」を支持する人の割合が高まるという傾向です。そしてその傾向は、本調査のこれまでの過年度の結果で、ずっと一貫した特徴なのです（図二参照）。

なぜ、年齢が高い人ほど、「これからは心の豊かさ」が大事と

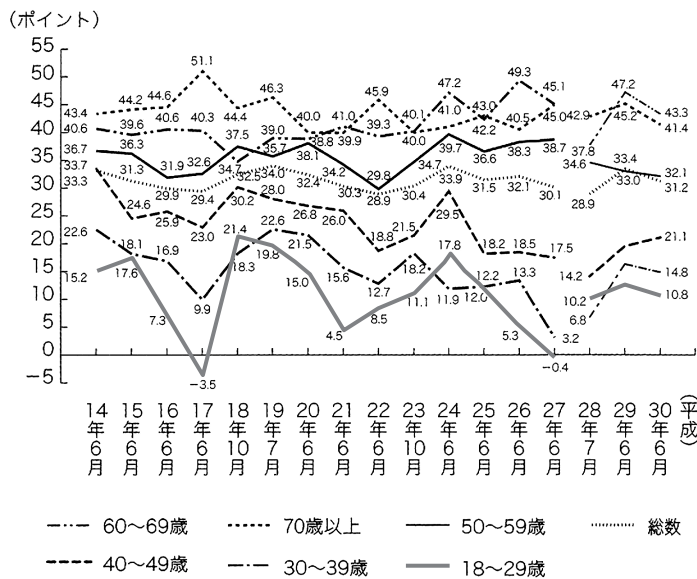
図一



「これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか（全体の推移）」（内閣府『国民生活に関する世論調査（平成30年6月調査）』（<https://survey.gov-online.go.jp/h30/h30-life/zh/z21-2.html> 2020年6月4日閲覧）より引用）。注：「心の豊かさ」＝「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活することに重きをおきたい」、「物の豊かさ」＝「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」。

回答している割合が高いでしょう。ここからはやや強引な想像になりますが、年齢が高い人は十分に資産的な蓄えができており、そのために「これからは心の豊かさ」と言えるだけの余裕がある人が多いのではないのでしょうか。それに対して、若い人たちはそんなことを言える余裕はほぼなく、まだまだ「物の豊かさ」を必要としているのではないのでしょうか。

図二



「これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか（年齢区分別の推移）」（内閣府『国民生活に関する世論調査（平成30年6月調査）』（<https://survey.gov-online.go.jp/h30/h30-life/zh/z21-s.html>）（2020年6月4日閲覧）より引用。注：グラフの値は、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするのに重きをおきたい」から「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」の割合を引いた値。

幸福感研究では「収入の満腹感」が指摘されていたことを思い出してください。ある一定の年収額に達すると、それ以上は金額が上がっても幸福度が比例して上がらない、という現象です。これは逆に言えば、その水準までは、収入が上がることは幸福度を高める可能性がある、ということでもあります。つまり、「物の豊かさ」はある程度それが達成されていなければ、求める人の割合が高くなるというのが、幸福感の研究結果からも裏付けられるのです。

これはまさに「衣食足りて、礼節を知る」ということわざの通りなのではないかと思えます。マスメディアなどではよく、「現代の日本人はすでに物質的豊かさを達成したにもかかわらず、心は貧しいままであり……うんぬん」というストーリーが、好んで使われます。しかしそれは、そう考えたい人たちによる、勝手な幻想ではないのか、という現実の一端を、この調査結果は示しているのではないかと私は思うのです。

いかと思うのです。そうではなく、今なお、物質的豊かさを享受できずにいる人たちがいる（そしてそれは若い人たちに多い）、という現実の一端を、この調査結果は示しているのではないかと私は思うのです。

さらに注意が必要だと思うのは、過去の調査結果の推移からは、50歳を境としてそれよりも年齢が上の層は、「心の豊かさ」を支持する人の割合がだいたい増え続けているのですが、40歳代以下の年齢層は逆に、それを支持する人は傾向として減り続けています。最近になるほど、40代未満は、「物質的豊かさ」をより求めるようになってきているのです。

もし先ほどの「衣食足りて礼節を知る」仮説が正しいのであれば、この結果は日本の若い世代で生活の余裕がどんどん、なくなってきたことを示している、とも考えることができるでしょう。そして、50代以上との心理的な「格差」^④が、どんどん開いてきている可能性があると思われるのです。

しかしなぜ、40代以下が「物の豊かさ」希求世代なのでしょう。2010年ぐらいの、リーマンショック直後の大不況があった中とき、私は若者自立支援について、いくつかの支援団体を調査していました。そのとき、ある若者支援の団体の方がぼそっと、「自分たちのやっていることは、重箱の隅を突いているようなもので、経済が回復して若者の雇用全体が改善しないと、不利な状況の若者の就職もなかなか、難しいんですね……」とつぶやいていたのが、今でも忘れられません。経済が厳しい中では、不安定な状況の人たちを支える余裕も社会になくなり、そうした人たちに一気にしわ寄せが来ることになるのです。バブル崩壊後の「失われた20年」の中で、「将来世代にツケを回さない」、「痛みを耐えてがんばれ」とのスローガンで政府は財政支出を減らしてきました。しかし結局、そのツケを払ったのは現役世代、それとくに、今では40代にもなっている「氷河期世代」の若者だったのです。そのことが「物の豊かさ」希求に影響をしているのではないかと、私は同じ世代の者として感じざるを得ないので。

2010年代の中頃から後半にかけては、金融政策の奏功と、世界経済が好調だったこともあり、日本の景気はだいぶ回復しました。その結果、若者の就職状況は改善しました。私も職場で大学生の就活を見続けていますが、この時期に劇的になりました。実際、リクルートワークス研究所の調査によれば、2012年3月卒の大卒求人倍率は1・23倍でしたが、2019年3月卒では1・88倍まで回復しています（『第37回ワークス大卒求人倍率調査』）。

日本全体での格差的な相対的な貧困の基準となる「相対的貧困」も、2012年の16・1%から2015年には15・6%と

やや減少しました。17歳以下に限った「子供の貧困率」で言えば、16・3%から13・9%の大幅減少でした。これは、失業率の改善の影響が大きいと言えるでしょう。余談ですが、こうした社会的な多少の余裕ができてきたからこそ、子ども食堂の全国的な増大といった、支援の輪の広がり生まれたのではないかと私は考えています。

しかしながら、2020年の新型コロナウイルス感染拡大は、世界中の経済を強制終了させてしまいました。子ども食堂といった支援の場も、感染防止のために開催が難しくなりました。この本の執筆段階では、経済の再起動がどう行なわれ、景気がどう回復するのかはまったく見通しがたっていません。地域の経済状況が再び上向きになることを願うばかりです。

すでに述べたように、失業状態は幸福度を損ねる大きな原因になることがわかっています。私も、会社都合で失業したときには、その先の不安や、自分はいらない人間だったのか、という自己評価の低下から寝られなく、横になってみても天井がぐわんぐわんゆがんでみえていたのを覚えています（失恋したとき以来でした）。持続的な経済の成長と、それによる失業率の低下、そして賃金の上昇があつてこそ、多くの人の生活が守られていくと実感をもつて考えています。

（桜井政成『コミュニティの幸福論 助け合うことの社会学』による。ただし、見出しを省略した）

1

問一 傍線部①はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 回答者の回答傾向に影響を与えるような問い方のこと
- 2 質問者が回答者を説得するために実施する調査のこと
- 3 個人の社会に対する姿勢を問うような質問内容のこと
- 4 持っている価値観によって多義的に読める言葉のこと

問二 図一、図二から読み取れることとして最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

2

1 図一において、心の豊かさと回答した割合は毎年着実に増加を続けているが、物の豊かさと回答した割合は減少傾向にある

2 図一において、心の豊かさと回答した割合と物の豊かさと回答した割合の値の多寡は一九七〇年代後半ごろに入れ替わった

3 図二において、割合の差がマイナスの値をとった世代は四〇代であり、物質的な面で生活を豊かにしようとする割合が多い

4 図二において、割合の差が最も大きいのは五一・一ポイントであり、物質的な面での充実と心の豊かさの両立が推測できる

問三 傍線部②はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

3

1 継続的に満腹感が得られると、全く幸福度が上昇しなくなってしまうこと

2 毎食十分に食べられる程度の収入こそが、多くの人々に満足感を与えること

3 収入が増えていくと、その人が得られる幸福度の上昇割合が低減すること

4 幸福度と収入は比例の関係にあるが、満腹感是人によって感じ方が異なること

問四 傍線部③はなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

4

- 1 人びとの心の貧しさは、衣食が足りていないこと、すなわち、物質的に満たされていないことが原因だから
- 2 日本社会における物の豊かさはすでに高い水準を達成したが、心は貧しいままだと自己否定しているから
- 3 精神的な豊かさが達成されておらず礼節を欠く社会は、物質的な豊かさの達成が不十分な状態のままだから
- 4 実際は今でも物質的豊かさを求めている人々がいるのに、それは達成されたものとして扱われているから

問五 傍線部④はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

5

- 1 収入減少によって幸福度の指標が低下していること
- 2 学歴格差によって豊かさの感じ方に差が生じること
- 3 年齢層による心の豊かさを重要視する傾向の差のこと
- 4 五〇代以上は若い世代と比べて豊かさを希求すること

問六 傍線部⑤はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

6

- 1 経済が厳しい状況であると、若者の自立支援団体が活動しても徒労に終わってしまうこと
- 2 政府が一定時期に緊縮財政をとり、その時不安定な状況だった世代に悪影響を与えたこと
- 3 細やかな仕事をひきうけるような団体は、経済状況が悪いとなかなか評価されづらいこと
- 4 物の豊かさを希求する世代は、リーマンショックで支援が受けられない状況になったこと

問七 傍線部⑥はどういうことか。最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

7

- 1 会社都合での失業であったにも関わらず、自分が悪いかのような評価を受けたこと
- 2 会社に対する信頼が裏切られてショックを受け、会社に対する信頼感が下がること
- 3 失業したことによって、自身の社会的な価値が否定されたように感じてしまうこと
- 4 会社の社会的評価が低下したため、そこに所属していた自分の評価も下がったこと

問八 本文の主旨と合致するものとして最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

8

- 1 若者世代が「心の豊かさ」を希求するのは、物質的豊かさの充実をすでに達成したが、それでは徐々に満足できなくなり、精神的豊かさを望む心理が反映されていると考えられる
- 2 年長世代が「心の豊かさ」を希求するのは、高度経済成長を経て物質的豊かさは叶えられたが、忙しさにかまけて、心が貧しいままであることの虚しさの現れであると考えられる
- 3 「物質的豊かさ」を求める傾向が強い世代には、それが達成されていない人々が含まれていることが推測でき、経済状況が厳しかった時期のつけを払わされたと考えることができる
- 4 「物質的豊かさ」と「心の豊かさ」の相関関係は、二〇二〇年の新型コロナウイルスの感染拡大によって一変し、従来の指標が無効となったため、影響力をはかることが困難である

(以下 余白)